

経営比較分析表（令和4年度決算）

栃木県 上三川町

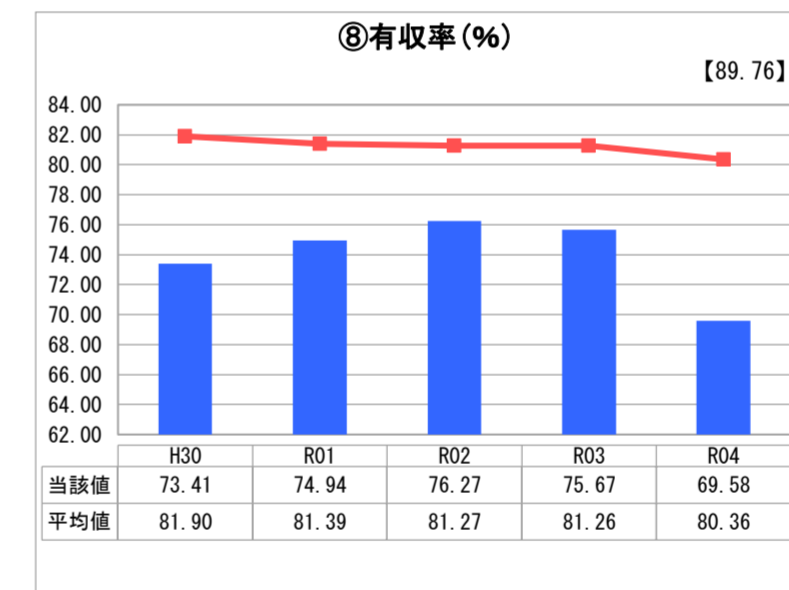
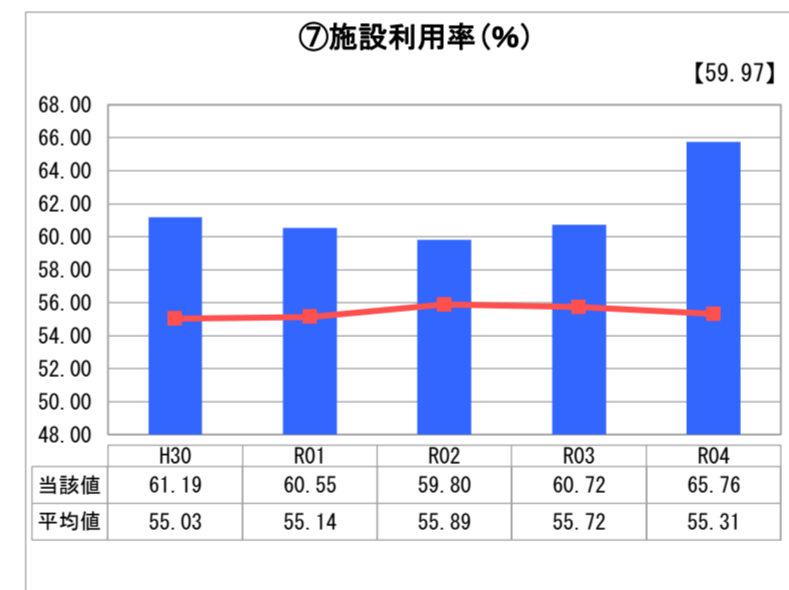
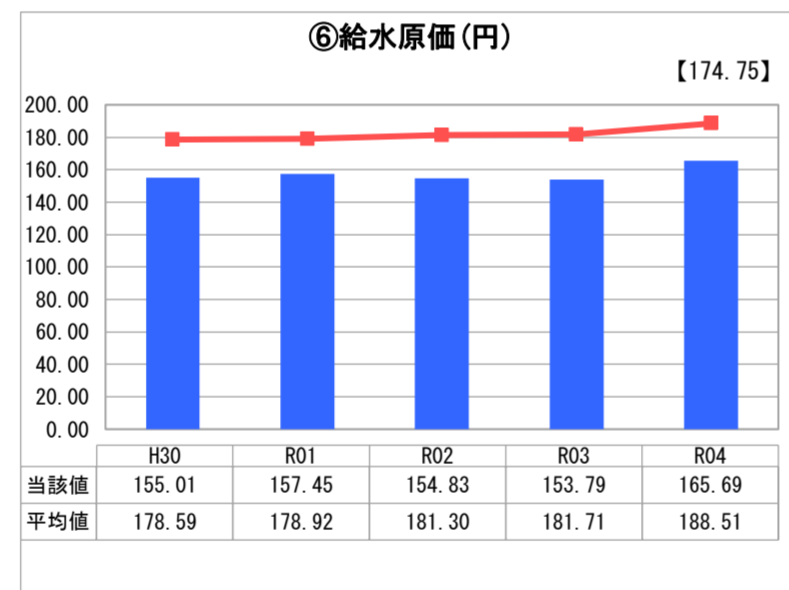
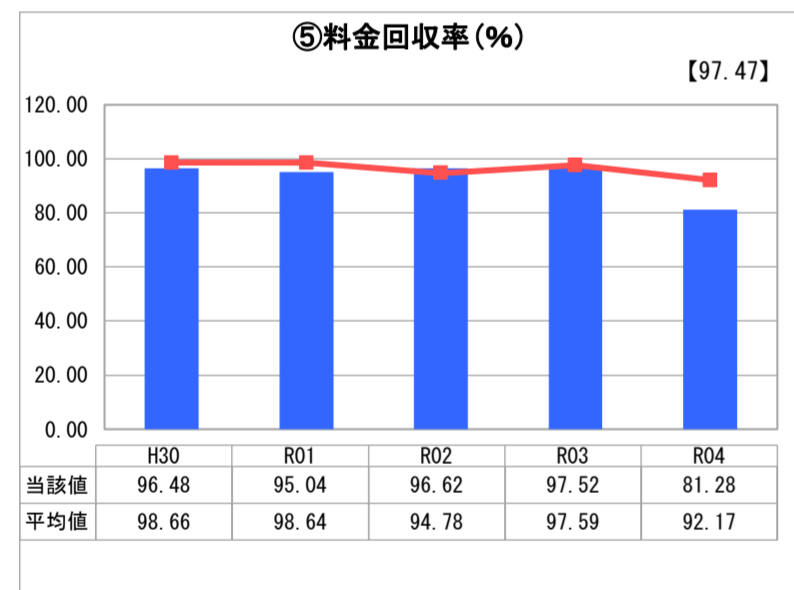
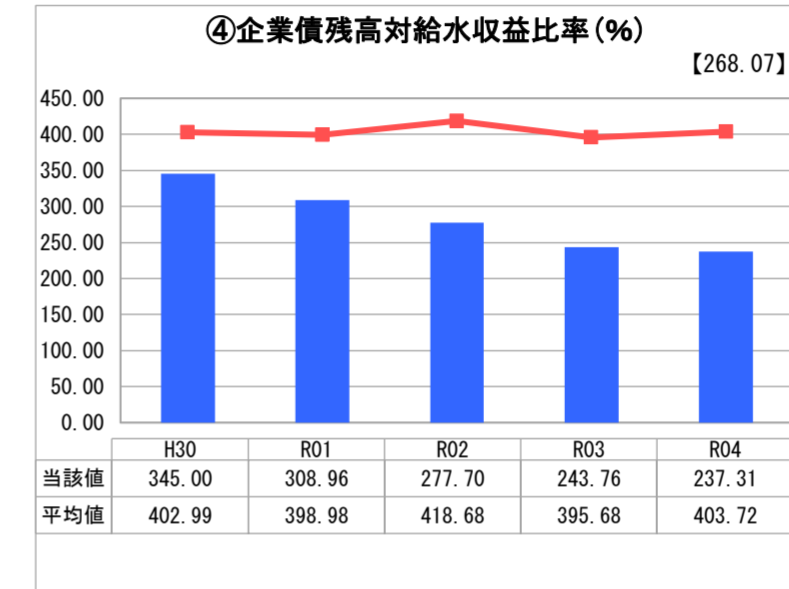
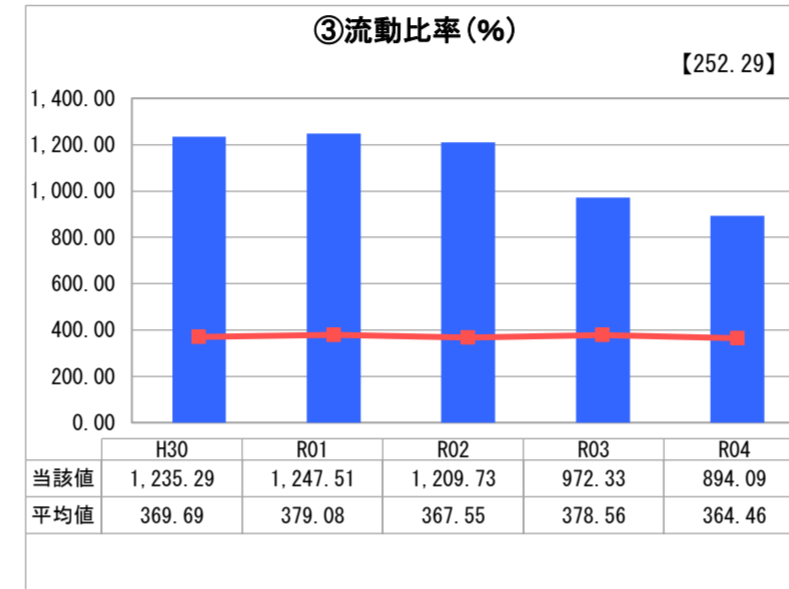
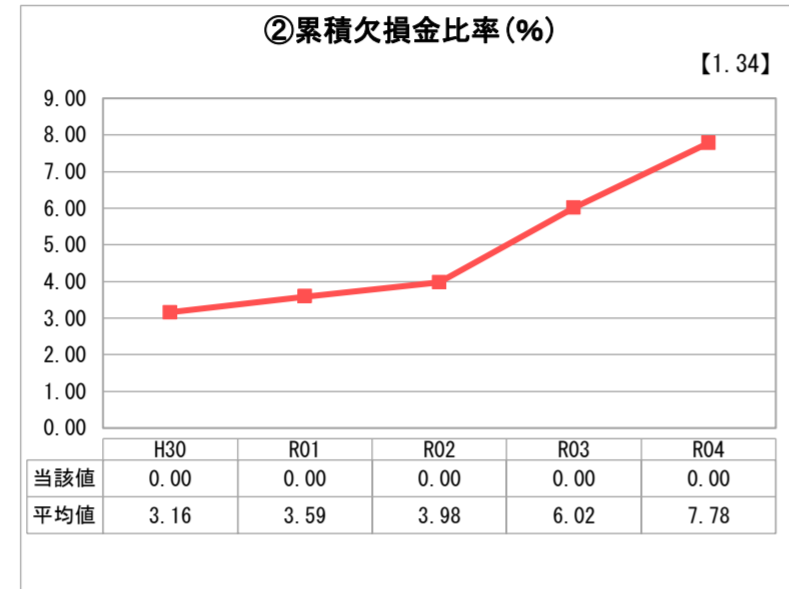
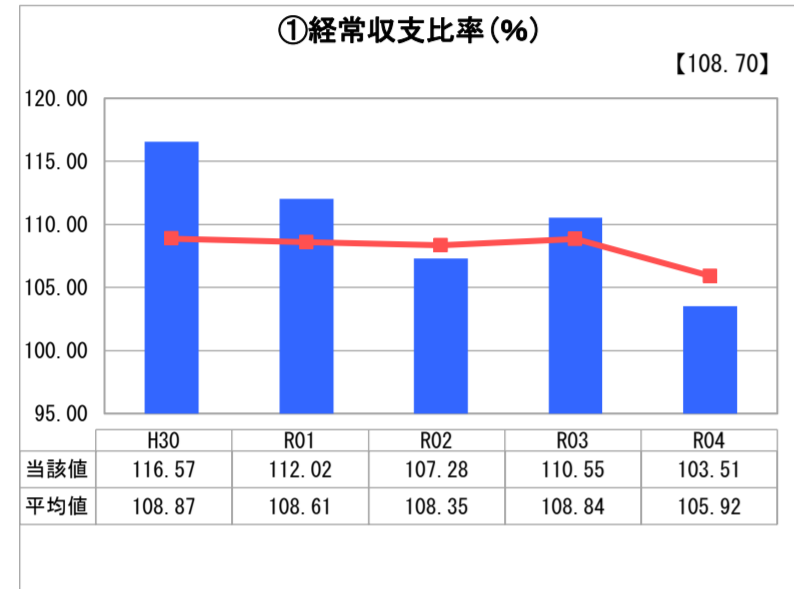
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	89.41	93.38	3,135	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
30,886	54.39	567.86
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
28,816	49.78	578.87

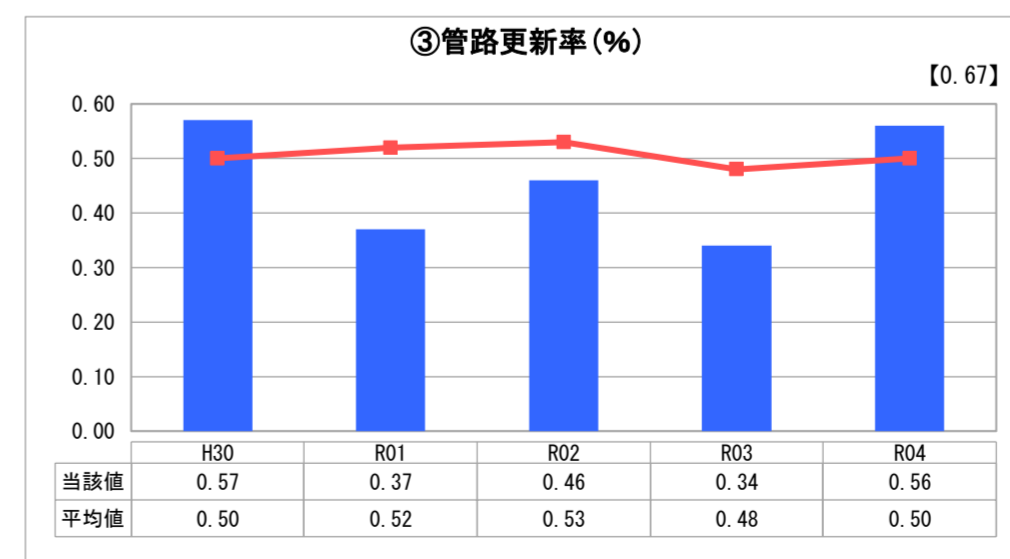
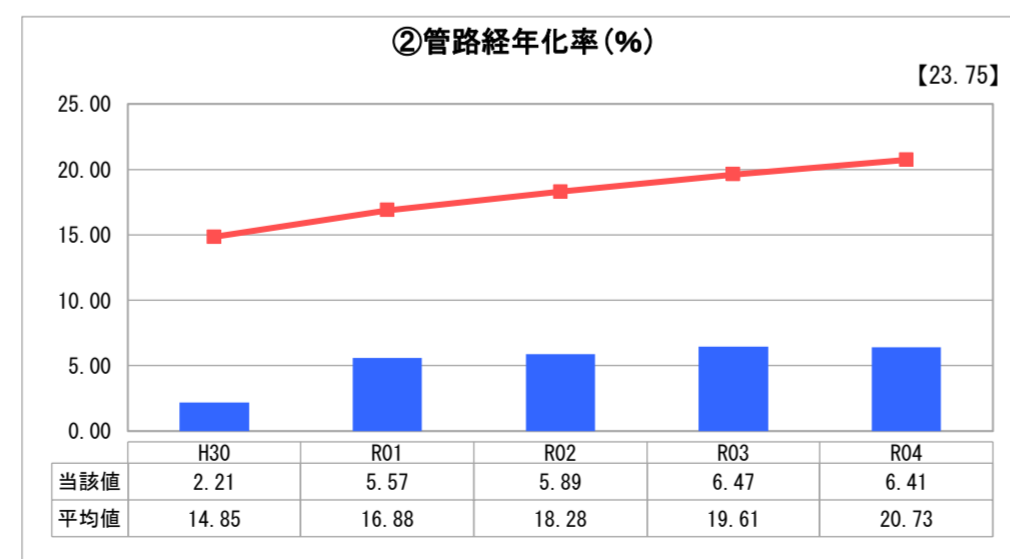
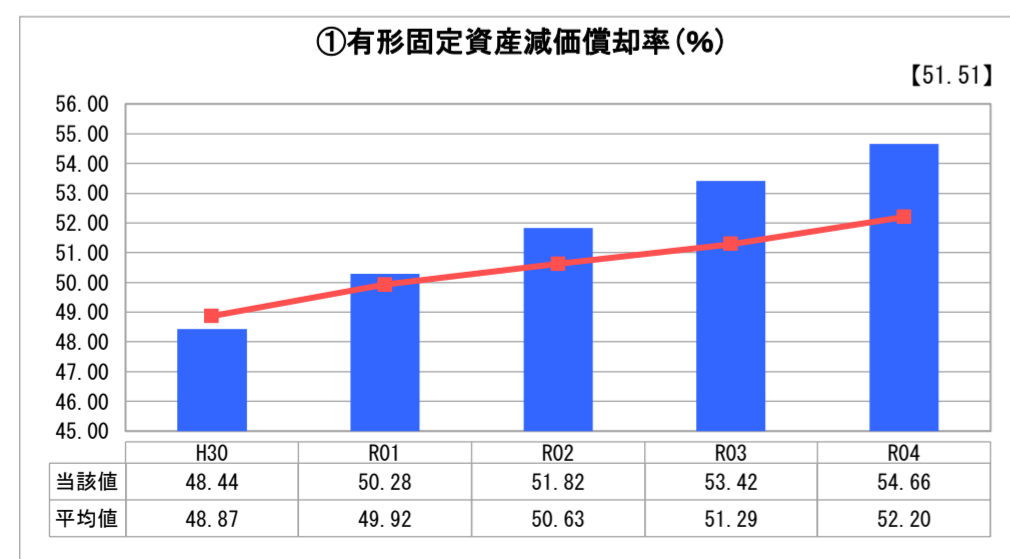
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は100%を超えている。また、④企業債残高対給水収益比率は類似団体平均値を下回っており、減少傾向にある。

一方で、⑤料金回収率は100%を下回っており、⑥給水原価は類似団体平均値を下回っているものの、給水に係る費用が水道料金で賄えていない状況にある。

また、⑦施設利用率は類似団体平均値を上回っている。

一方で、⑧有収率は減少しており、類似団体平均値を下回っており、収益につながりにくく、効率性が悪い状況にあると言える。

これらのことから、更なる経費削減等に努め、料金回収率の向上を目指すとともに、今後の給水人口や水需要の動向に注意しながら施設更新等を検討し、計画的に老朽管の更新等を行うことが必要である。

特に、漏水対策については、水道本管から複数箇所での漏水の可能性があるので、引き続き対策を進めていく必要がある。

2. 老朽化の状況について

②管路経年率は類似団体平均値を下回っている。

一方で、①有形固定資産減価償却率は類似団体平均値を上回っており、上昇傾向にある。

これらのことから、現時点では管路の更新等の必要性は低いものの、管路以外の施設等は老朽化が進んでいることが考えられ、今後、管路も含め、更新等に係る費用が増大していくことが予測されるため、財源の確保や計画的な更新等が必要となる。

また、管路の更新等を実施する際には、道路工事と同時施工を行う等、経費の削減を図ることも必要である。

全体総括

経営の健全性・効率性を表す数値は概ね良好なものとなっている。しかしながら、給水に係る費用が水道料金で賄えない状況であることから、今後も引き続き経費の削減や料金収入の確保等に努めていく必要がある。

また、老朽化に伴う施設更新等については、令和2年度に策定した新水道ビジョンをもとに、計画的に改修を行っていく必要がある。